

<特集「所有・存在表現」>

イタリア語の所有・存在表現 Possessive and existential expressions in Italian

久保 博
Hiroshi Kubo

東京外国語大学非常勤講師
Part-time lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、特集「所有・存在表現」のアンケートに沿って、イタリア語のデータを提供することを目的とする。

Abstract: The purpose of the present paper is to give data of possessive and existential expressions in the Italian language, based on the questionnaire of the special topic of this volume.

キーワード: 所有表現、存在表現、イタリア語

Keywords: possessive expression, existential expression, Italian

1. はじめに

まず、イタリア語における「所有・存在の表現」に関する基本的な情報を提示したい。

イタリア語の所有を表す文を作る時、動詞 *avere* を用いるのが最も一般的である。最も基本的な意味は「所有している」という意味だが、そこから「携帯している」さらには体の特徴、体調、服装、年齢、国籍、性格、才能なども表すことができる。

英語の *with* に相当する所有を表す側置詞（イタリア語の場合前置詞）は名詞が「所有されているもの」や「体の状態」などの場合、*con* を用いるのが最も一般的である。所有者を表す場合、*di* を用いる。前置詞 *di* の一般的な意味は「～の」だが、そのほか様々な用途がある。所有を表すために *con* と同じように使えるものが *da* なのだが、興味深い用法上の相違を示す。これについては、例文を見ながら解説する。¹

所有を表す接辞に関して言えば、数種類あり最もよく使われるのが *-oso* である。ただ、この接尾辞を用いて作られる形容詞はただ単に「備えている」というのではなく「・・・に満ちている」や「・・・が多い」という意味がある。本アンケートでは(23)で用いられた。ほかに過去分詞と同じ接尾辞の *-uto*, *-ato* などほかにいくつかあり、それぞれ細かな意味が違うので、(3)で実際の用法を見ながら解説する。

存在を表す文を作る時、動詞 *esserci* 「ある・いる」を用いるのが一般的であるが、そのほかに *esistere* 「存在する」をはじめとしたほかの動詞も存在する。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deedja>

¹ この用法の前置詞 *da* に対応する語が英語にないので、グロスでは DA と示す。

今回のアンケート調査は、イタリア語を対象とし、例文の作成にあたっては、イタリア人（1987 年 生まれ、フリウリーヴェネツィア・ジューリア州ウディネ県出身）のネイティブ話者 1 名の協力を得た。いくつかの例文については、複数の異なるタイプの文を提示している。

2. アンケート回答

(1) あの人は青い目をしている。

a.

Lui	ha	gli occhi	azzurri
he.NOM	has	the eyes.ACC	blue

青い目の人・目が青い人

b.

L'uomo	dagli	occhi	azzurri
the man.NOM	DA.the	eyes.ACC	blue

c.

L'	uomo	con	gli occhi	azzurri
the	man.NOM	with	the blue	eyes.ACC

(2) あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている

a.

Lei	ha	i capelli	lunghi
she.NOM	has	the hairs	long.ACC

長い髪の女・髪の長い女

b.

La donna	dai	capelli	lunghi.
the woman.NOM	DA.the	hairs	long.ACC

(3) あの人には髭がある。

a.

Lui	ha	i	baffi
he.NOM	has	the	beards.ACC

髭の男

b.

L'uomo	con	i	baffi
the man.NOM	with	the	beards

イタリア語には、英語の blue-eyed のような形容詞はないが、alato「羽を有する」や nasuto「きわめて目立つ鼻を有した」のような形容詞がある。前者は ale「羽」+ ato 後者は naso「鼻」+ uto という構造

になっている。前者の場合、羽の生えていない、もしくは羽が生えているとは限らない動物を修飾する場合「非普通所有物」となるので、*insetto alato*「羽が生えた虫」や *cavallo alato*「ペガサス（字義的には羽の生えた馬）」ともいえるが、羽が当然である鳥を修飾すると違和感を覚えるという。

後者が *naso*「鼻」という「普通所有物」から派生しているにみかかわらず、明示的に *blue-eyed* のような修飾要素を伴わないのは、意味として示した通り *-uto* が「きわめて特徴的な」という意味を付与するためであろう。これら *-uto* や *-ato* で派生させられる語は、Wandruszka (2004)を一読した感じ通常は切り離さない体の一部から派生させることが多いようだが、*barbuto* (*barba*「髭」+ *-uto*)や *occhialuto* (*occhio*「目」+ *-uto*)のような形容詞も見つかっていることを考えると、ある人物の際立った特徴を指していると考えたほうが妥当であろう。また、辞書や Wandruszk (2004:398)には、*unghiuto* (*unghia*「爪」+ *-uto*) や *unghiato* (*unghia*「爪」+ *-ato*)のような語も出てくるのだが、今回の情報提供者にとって *unghiuto* とともに *unghiato* は知らない言葉で「ふつう使わない」語彙であるという。つまりこれらの接尾辞を用いて語彙を派生させる生産性はそこまで高くはないと考えられ、実際 Ricca (2004:484)でもそう述べられていた。

L'uomo dagli occhi azzurri と *L'uomo con gli occhi azzurri* の違いについて、情報提供者は当初意味上の違いはなく、前者は本の中でのみ使う表現と言っていたが、アンケートを進めるうち *da* 以下の名詞句が、*da* の前の名詞の最も際立った特徴を表しており、名詞句全体であたかも固有名詞と近い印象を受けると述べた。例えば *L'uomo dagli occhi azzurri* の場合、ふつう青い目をした人がいないような土地に住んでいる青目の男をさしていることになる。本の中でのみ使う表現といったのも、「あだ名」で呼ばれる物語の登場人物もしくは歴史上の人物のような印象を受けるからだという。さらに、情報提供者が与えてくれた貴重で大変興味深いものが、「九尾の狐」である。マンガやアニメに登場する「九尾の狐」が *la volpe dalle nove code* となるのは我々日本人にとって、「あだ名で呼ばれる物語の登場人物もしくは歴史上の人物のような印象」を理解する上でとても分かりやすい例であろう。この話を受けて「赤毛のアン」のイタリア語訳がどうなっているのかを聞いたところ、*Anna dai capelli rossi* と、やはり *da* を用いるのが通常であるとのことであった。

con を用いたものは、一般的に「青い目をした」という体の特徴を記述する場合に見られる。所有を表す前置詞 *da* と *con* の文法上の相違として、「髭の男」を表現するのに *con* の場合は（定冠詞を伴った）名詞のみで用いることができる一方で、*da* は修飾語を伴っていないと非文法的になるという点を挙げることができる。

(4) あの人には（見る）目がある。

a.

Lui	ha	occhio
he.NOM	has	eye.ACC

名詞化する場合、情報提供者は関係節をつかう例しか思いつかなかった。

見る目のある人

b.

L'uomo	che	ha	occhio
the man	that	has	eye.ACC

(5) あの人は22歳だ。

イタリア語では、通常(5a)の表現を使うが、言おうと思えば(5b)の様に、繋辞と「二十二歳の」という形容詞で同じ意味の文を作ることができる。「二十二歳の男」のように年齢を修飾要素として用いる場合は、一般的に前置詞 *di* を用いるが、*ventiduenne* という形容詞もある。

a.

Lui	ha	22 anni
he.NOM	has	22 years.ACC

b.

Lui	è	ventiduenne
he.NOM	is	22.years.old

22歳の人

c.

l'uomo	di	22 anni
the man	of	22 years

(6) あの人は優しい性格だ。

その他の側面語に関しては、一般的に *avere* を用いていうことも可能であるが、日常的には繋辞と形容詞を用いるのが普通の様である。しかし側面語に修飾語が伴う場合、日常的にも *avere* を用いた文を頻繁に使うという。

a.

Lui	è	gentile.
he.NOM	is	kind

b.

Lui	ha	un	carattere	gentile.ACC
he.NOM	has	a	character	kind.ACC

優しい性格の人

c.

l'uomo	dal	carattere	gentile
the man	DA.the	caracter	kind

d.

l'uomo	con	il	carattere	gentile
the man	with	the	character	gentile

e.

l'uomo gentile
the man kind

f.

L'uomo dalla gentilezza incredibile
the man DA.the kindness incredible

(7) あの人は背が高い。

身長を表す場合は, avere を使った例文を作ってほしいと依頼したが, どのようにしても違和感を覚えるようだった. 前置詞を使った名詞句の場合, 前置詞 con を使うと違和感を覚えるとのことだった.

a.

Lui è alto
he.NOM is tall

b.

Lui è alto di statura
he.NOM is tall of stature

c.

Lui è di statura alta
he.NOM is of stature tall

背の高い人

d.

l'uomo dalla statura alta
the man DA.the stature tall

(8) あの人は背が 190 センチもある。

a.

Lui è alto 1 metro e 90 centimetri
he.NOM is tall, high 1 meter and 90 centimeters

b.

Lui ha una statura di 1 metro e 90 centimetri
he.NOM has a stature.ACC of 1 meter and 90 centimeters

(9) その石は四角い形をしている。

a.

la pietra è quadrata
the stone.NOM is square

b.

la pietra ha una forma quadrata
the stone.NOM has a form square.ACC

四角い (形の)石

c.

la pietra quadrata
the stone square

d.

la pietra dalla forma quadrata
the stone DA.the form square

(10) あの人には才能がある。

(10) - (17)のような様々な属性表現においては、今まで見た *avere* と *essere* 以外にも *portare* 「運ぶ」
indossare 「身に着ける, 身に着けている」, *contenere* 「含む」などの動詞が使った表現が見受けられる
ようになる。

孤立状態では、どのような才能なのかを示さないと文を作りにくいとのことなので適宜補足した。才
能を表す場合 *avere* を使うこともできれば *essere* を使うこともできる。

a.

Lui è dotato musicalmente
he.NOM is gifted musically

b.

Lui ha un talento incredibile
he.NOM has a talent.ACC incredible

才能のある人

c.

l'uomo con il talento incredibile
the man with the talent.ACC unbelievable

d.

l'uomo dal talento incredibile
the man DA.the talent.ACC incredible

(11)あの人は病気だ。

「病気の人」という場合、前置詞 *con* は使えるが *da* は使えない。

a.

Lui è ammalato
he.NOM is sick

病気の人

b.

l'uomo con la malattia pesante
the man.NOM with the disease heavy

c.

l'uomo ammalato
the man sick

あの人は熱がある.

d.

Lui ha la febbre.
he.NOM has the fever.ACC

熱のある人

e.

l'uomo con la febbre alta
the man with the fever high

「熱く／寒く感じる」「空腹である」「眠い」「急いでいる」「怖い」「(一時的に) 必要である」「～したい」なども *avere* を使って表現することができる。特に、「熱く／寒く感じる」「空腹である」「眠い」「急いでいる」「怖い」は通常 *avere* を使う。ただ、これらの表現のなかで「熱がある」のみ定冠詞を伴う。

(12) あの人は青い服を着ている.

身に着けている服や装飾品も *avere* を使うことができる.

a.

Lui ha il vestito blue
he.NOM has the clothes.ACC blue

b.

Lui indossa / porta il vestito blue
he.NOM wear / bring the clothes.ACC blue

青い服の男

c.

l'uomo dal vestito blu
the man DA.the clothes blue

d.

l'uomo con il vestito blu
the man with the clothes blue

(13) あの人はメガネをかけている.

a.

Lui ha gli occhiali
he.NOM has the glasses.ACC

b.

Lui indossa / porta gli occhiali
he.NOM wear / bring he glasses.ACC

メガネの男

c.

L'uomo dagli occhiali neri
the man DA.the glasses black

d.

L'uomo con gli occhiali neri
the man with the glasses black

(14) あの人には妻がいる.

a.

Lui ha una moglie
he.NOM has a wife.ACC

彼は結婚している.

b.

Lui è sposato
he.NOM is married

既婚の人・妻のいる人

c.

l'uomo sposato
the man married

(15) あの人には3人子供がいる。

avere を用いて、親族のみならず友人や、知り合い、同僚なども表現することができる。

a.

Lui	ha	tre	figli
he.NOM	has	three	children.ACC

3人の子持ちの人

b.

L'uomo	con	3 figli
the man	with	3 children

妊娠している女性

「妊娠している女性」の場合、通常 *avere* は使わない。

c.

La donna incinta	/ che aspetta	un	bambino
the woman pregnant	/ that waits	a	baby.ACC

(16) タコには足が8本ある。

一般的な真理にも *avere* 用いることができる。

il	polpo	ha	8 tentacoli
the	octopus.NOM	has	8 tentacles.ACC

(17) その飲み物にはアルコールが入っている。

「アルコールを含む」を意味する *alcolico* を用いる。接尾辞 *-ico* は科学の分野でよく使われる接尾辞である。*avere* を用いたとき、情報提供者にとってイタリア語としてあまりいい文とは言えないとのことで、*contenere* 「含む」という動詞を用いるほうがいいとのことだった。

a.

La bevanda	è alcolica
the drink.NOM	is alcoholic

b.

La bevanda	contiene alcol
the drink.NOM	contains alcohol.ACC

アルコール入りの飲み物

c.

la	bevanda	alcolica
the	drink	alcoholic

この場合、前置詞 *da* を用いることはできず、また *con* を用いる場合で *alcol* が修飾されていないと奇異な感じを受けるとのことだった。

d.

la bevanda	con	l'	alcol	puro
the drink	with	the	alcohol	pure

(18) あの人はお金を持っている。

avere が「所有」「携帯」などを表すことができるので、実際に「手に持っている」場合は、そのことを明示し *in mano* 「手に」で補うのが通常である。 *L'uomo dai tanti soldi* は「おそらく可能だが実際何なのかよくわからない」というコメントをした。対話をしているうちに、 *L'uomo dai 1000 cammelli* 「千のラクダの男」なら「おそらくアラブの王様のことをさす」という意見を述べた。

a.

Lui.NOM	ha	tanti	soldi
he.NOM	has	many	money.ACC

b.

Lui	è ricco
he.NOM	is rich

お金持ちの人

c.

L'uomo con	tanti	soldi
the man with	many	money

千のラクダの男

d.

L'uomo	dai	1000 cammelli
the man	DA.the	1000 camels.

(19) おまえのところには犬がいるか？

a.

Tu	hai	cani?
you.NOM	have	dogs.ACC

犬のいる人

b.

l'	uomo	con	i	cani
the	man	with	the	dogs

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか？

a.

Tu	hai	una	penna?
you.NOM	have	a	pen.ACC

ペンを持っている人

b.

L'uomo	con	una	penna
the man	with	a	pen

c.

?L'uomo	dalla	penna	d'	oro
the man	DA.the	pen	of	gold

おそらく可能かもしれないが、「金のペンであろうと、ペンという小さなものがその人の特徴になるというのはあまり考えられない」とのべた。

(21) あ的那个人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

Lui	ha	la penna	di qualcuno
he.NOM	has	the pen.ACC	of someone

(22) あ的那个人は運がいい。

a.

Lui	è fortunato
he.NOM	is lucky

avere を使う場合、fortuna が修飾されているのが通常である。

b.

Lui	ha	una	fortuna	incredibile
he.NOM	has	a	luck.ACC	incredible

幸運な人

c.

l'	uomo	fortunato
the	man	lucky

da を用いる場合は、なにかこの世のものとは思えないような「幸運」を持っている場合ならば、可能だろうと述べた。

d.

L'uomo dalla fortuna esagerata
the man DA.the fortune exaggerated

信じられないような幸運を持った男

e.

L'uomo con la fortuna incredibile
the man with.the fortune incredible

(23) ここは石が多い.

a.

Qui ci sono tanti sassi
here the are many stones.NOM

b.

Qui è sassoso
here is stony

前置詞は *con* と *da* は土地などにも用いることができる。(以下の例文は「石」を使うと例が浮かびにくくという理由で「岩」を用いた例を提供してもらった)

岩が大きい山

c.

la montagna dalle rocce giganti
the mountain DA.the rocks giant

d.

la montagna con le rocce giganti
the mountain with the rocks giant

(24) その部屋には椅子が3つある

単純に存在を表す *esserci* を用いると、ただ椅子が三つ存在しているという意味にしかならないが、*avere* を使った場合、部屋に備え付けられている、という意味になる。

a.

Nella stanza ci sono tre sedie
in.the room there are 3 chairs.NOM

b.

La stanza ha tre sedie
the room has 3 chairs.NOM

3 つ鏡のある部屋

c.

La stanza dagli 3 specchi
the room DA.the 3 mirror

d.

La stanza con 3 specchi
the room with 3 mirrors

(25) テーブルの上にスプーンがある.

a.

Sul tavolo c'è un cucchiaio
On.the table there is a spoon.NOM

(24)で述べた通り avere は「備え付けられている」という意味を伴うため、この文でそれを用いると非文法的になると思われる。実際机の脚の場合、avere を使うことは可能の様である。

b.

Il tavolo ha le gambe rosse
the table.NOM has the legs ACC red

スプーンのあるテーブル

c.

il tavolo dalle gambe rosse
the table DA.the legs red

d.

Il tavolo con le gambe rosse
the table with the legs red

(26) そのスプーンはテーブルの上にある.

ある場所が新情報の場合、通常 essere が使われる.

a.

Il cucchiaio è sul tavolo
the spoon.NOM is on.the table

テーブルにあるスプーン

b.

il cucchiaio sul tavolo
the spoon on.the table

(27) そのペンは私のだ.

a.

La penna è mia
the pen.NOM is mine

そのペンは太郎のだ.

b.

La penna è di Taro
the pen.NOM is of Taro

私のペン

c.

La mia penna
the my pen

太郎のペン

d.

La penna di Taro
the pen of Taro.NAME

(28) 昨日, 学校で火事があった.

イタリア語では *esserci* を用いるのが通常である.

Ieri c' è stato un incendio a scuola
Yesterday there is been a fire.NOM at school

私は明日用事があります.

イタリア語では, *avere* を使うのが通常ではあるが, *esserci* を使うことも, このアンケートの前半で扱った接尾辞-*ato* を伴った *impegnato* 「忙しい」という形容詞を用いることもできる.

a.

Domani (io) ho degli impegni
Tomorrow (I.NOM) have some appointments.ACC

b.

Domani ci sono tanti impegni
Tomorrow there are a lot of appointments

c.

Domani (io) sono impegnato
Tomorrow (I.NOM) am busy

(29) (この世には) お化けなんていない.

a.

Non ci sono fantasmi in questo mondo
Not there are ghosts.NOM in this world

b.

Non esiste fantasma in questo mondo
Not exists ghost.NOM in this world

(30) (そこには) 英語を話す人もいるが, 話さない人もいる.

a.

C' è chi parla in inglese, ma c' è chi non parla in inglese
there is who.NOM speaks in English, but there is who.NOM not speak in English

b.

Alcuni parlano in inglese, ma alcuni altri.NOM non parlano in inglese
Some.NOM speak in English, but some others.NOM not speak in English

(31) 私より英語ができる人は (ほかに/もっと) います.

Ci sono delle persone.NOM più brave in inglese di me
There are some people.NOM more good in English than me

(32) ちょっとあなたにお願いがあります.

avere も esserci とともに使うことができる. 後者の場合は, 前後の文脈か, 明示的に補わなければ誰の「お願い」なのか不明である.

a.

(io) ho un favore da chiederti
(I.NOM) have a favour.ACC to ask you

b.

C' è un favore da chiederti
there is a favour.NOM to ask.you

(33) 冬の雨

a.

le piogge invernali,
the rain of.winter.ADJ

b.

le piogge d' inverno
the rains of winter

c.

le piogge in inverno
the rains in winter

東京の家

d.

La casa a Tokyo
the house in Tokyo

e.

La casa di Tokyo
the house of Tokyo

(34)

ここでは、動作を表す名詞とその動作を行う主体の修飾関係が問題である。動作の主体は、一般的に前置詞 *di* によって導入される。(34f)の「生産物」を修飾する場合でも、英語の *by* に対応する前置詞は用いられないが、「カルヴィーノが持っている小説」と解釈することもできる。そのほか、(34a)の様に所有形容詞を用いることもできる。(34e)の様に、動作が行われる対象も *di* で導入さらえる。

動作を表す名詞のかわりに、動詞の不定形を用いることもできる。一般的に動詞の不定形が用いられた場合、動作のプロセス自体が強く意識されるようである。本アンケートでは(34c)でのみ現れた。名詞 *latrati* 「鳴き声」を用いた例では、その鳴き声のみが意識され、不定詞を用いた例では、「鳴き声を含めた鳴くという行為」が意識されるようである。

彼の泳ぎ

a.

Il	suo	modo	di nuotare
the	his	way	of swimming

犬の鳴き声

b.

I	latrati	del	cane
the	bark	of.the	dog

c.

l'abbaiare	del	cane
the barking	of.the	dog

火山の爆発

d.

L'	esplosione	del	vulcano
the	eruption	of.the	volcano

車の運転

e.

la manovra della macchina
the driving of.the car

カルヴィーノの小説

f.

il romanzo di Calvino
the novel of Calvino.NAME

(35)

トンマーゾさんのお母さん

a.

La madre di Tommaso
the mother of Tommaso.NAME

机の横に／机の前に／*机に（来て！）

b.

(vieni) al fianco del / davanti al / al tavolo
(come) by / in front of / to the table

あの人の次

c.

Dopo quella persona.
after that person

あの人の次（の人）

d.

la persona dopo
the person after

(36)

バラの花びら

a.

i petali di rosa
the petals of rose

果物のナイフ

b.

il coltello da frutta
the knife for fruits

紙の飛行機

c.

l'aereo di carta
the plain of paper

チューリップの絵

d.

il quadro di tulipani
the painting of tulips

花の匂い

e.

Il profumo dei fiori
the smell of the flower

英文の手紙

f.

la lettera in inglese
the latter in English

日本語の先生

g.

il professore di giapponese
the teacher of Japanese

井戸の水

h.

L'acqua del pozzo
The water of the well

雨の日

i.

il giorno di pioggia
the day of rain

(37)妹の花子

a.

Mia sorella Hanako
My sister Hanako

社長の田中さん

b.

Il presidente Tanaka

the president Tanaka.NAME

(38)となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ (が昨日突然パンクしたんだって.)

a.

(Ieri si è bucato) un pneumatico della macchina del padre
(yesterday PRON.REFL.3.SG is punctured) a tire.NOM of.the car of.the father

dell'amico della casa accanto
of.the friend of.the house beside

このように前置詞 *di* をいくつもつなげることはまれであり, 通常このような内容は, 一文でなく, いくつかの文に分けるようである.

「この近くに友達が住んでいます. 昨日そのお父さんの車のタイヤがパンクしました」

b.

Qui vicino vive un amico Ieri si è bucato un pneumatico
here near live a friend.NOW yesterday PRON.REFL.3.SG is punctured a tire

della macchina di suo padre
of.the car of his father

参考文献

Wandruszka, Ulrich. 2004. Aggettivi di relazione, in Grossmann *et al.* (2004), pp.382-401.

Ricca, Davide. 2004. Aggettivi deverbali, in Grossmann *et al.* (2004), pp.419-449.

Grossmann, Maria *et al.* (a cura di). 2004. La formazione delle parole in italiano. Max Nimeyer Verlag: Tübingen.

執筆者連絡先 : hiroshi80@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2021 年 1 月 6 日